

第3回 ICT を活用した自立活動の効果的な指導の在り方検討会議 次第

日時：令和4年2月14日（月）

10時00分～12時00分

場所：兵庫県民会館 1202 会議室

1 開 会

- ・開会あいさつ

2 報告事項

○研究指定校より今年度の取組報告

- ・県立姫路聴覚特別支援学校
- ・県立豊岡聴覚特別支援学校

○事務局より

- ・京都宇治支援学校視察報告
- ・リーフレット作成について
- ・今年度の事業の取組について
- ・次年度に向けて

3 協議事項

テーマ「ICT を活用した自立活動の効果的な指導の在り方調査研究事業の
成果と今後の課題について」

4 閉 会

- (1) 事務連絡
- (2) 閉会あいさつ

第3回 ICTを活用した自立活動の効果的な指導の在り方検討会議 出席簿

令和4年2月14日（月）
兵庫県民会館1202会議室

No.	名 前	所 属 役 職	備 考
1	丹羽 登	関西学院大学 教授	
2	小川 修史	兵庫教育大学大学院 准教授	
3	相本 広幸	兵庫県小学校長会 副会長 (相生市立相生小学校 校長)	テレビ会議
4	東川 富彦	兵庫県中学校長協会・副会長 (西宮市立甲陵中学校)	
5	村松 好子	特別支援教育諸学校長会・会長 (県立東はりま特別支援学校)	テレビ会議
6	河村 有紀彦	研究指定校・校長 (県立姫路しらさぎ特別支援学校)	テレビ会議
7	垂井 健一	研究指定校・校長 (県立西はりま特別支援学校)	テレビ会議
8	原田 綾女	西宮市教育委員会学校教育部特別支援教課 課長	テレビ会議
9	小西 圭子	特別支援学校PTA連合協議会・会長 (県立姫路特別支援学校)	
10	井上 三枝子	公益財団法人兵庫県手をつなぐ育成会 理事長	
11	山下 豊久	県立姫路聴覚特別支援学校	テレビ会議 ※研究指定校報告者
12	河島 ひとみ	県立姫路聴覚特別支援学校	テレビ会議 ※研究指定校報告者
13	元井 深香	県立豊岡聴覚特別支援学校	テレビ会議 ※研究指定校報告者
14	竹中 正彦	県立姫路しらさぎ特別支援学校特別支援学 校	テレビ会議 ※オブザーバー
15	藤井 圭汰	県立西はりま特別支援学校	テレビ会議 ※オブザーバー

第3回
ICTを活用した自立活動の
効果的な指導の在り方検討会議

実践報告

県立姫路聴覚特別支援学校
聴覚支援センター

山下 豊久



1

対象生徒の実態と指導目標

生徒① 中学校3年 男子

障害の程度： 中等度難聴（右60dB 左54dB）
両耳補聴器装用 療育手帳B2

実態

- 小学5年時に難聴であることが判明、補聴器を装用
- 中学2年時より通級指導を開始。
- 聞こえだけではなく、発達の面での困難さもあり、学習の面での遅れもあり、手帳を取得。
- 一時、登校しにくい状況であったが、通級指導には出席。現在は登校できているが、別室指導を受けることが多い。
- 通級指導については、保護者引率で公共交通機関を用いて来校しているが、母親の負担が大きくなる時があるため、遠隔通級指導の対象とした。

2

生徒① 中学校3年 男子

指導目標

- 自分自身の障害の特性を理解して対処法を身につけると共に、周囲の人々にも自身の特性について理解を求めることができる力を育ませる。
- 聞こえにくさによる言語の習得の難しさを克服するために、語彙力を高める学習に取り組ませる。
- 積極的な人間関係構築のためのコミュニケーション力を培わせる。

3

生徒② 中学校3年 女子

障害の程度：一側性難聴（右78dB 左12dB）
補聴器装用なし 療育手帳B2

実態

- 週に一回予定の来校での指導が、引率をして来る母親の都合で欠席することが多いため、遠隔通級指導の対象とした。
- 発達の面での困難さはあるが、何事にもまじめに取り組むことができ、教科によっては学業成績も向上している。
- 言葉遣いはよく、いつもていねいな言葉使いで話すことができるが、人とのコミュニケーションは苦手で、一般常識的な言葉に対する知識が乏しい。
- 自身の聞こえや特性については理解しているが、その特性を受容することが難しい。

4

生徒② 中学校3年 女子

指導目標

- 聞こえにくさから生じる困難さを理解し、その対処法を身につけさせる。
- 自身の特性を受容し、周囲の人にその特性を理解してもらうことの大切さを知らせ、他者との人間関係を円滑に進めることができるコミュニケーション力を育ませる。
- 一般常識的な語彙力を高める。

5

指導の手立て

- 興味関心をもって取り組めるように、クイズ形式で学べるようにした。
- パワーポイントでイラストや写真を提示しながら、記憶に残りやすいように視覚的な情報を多く取り入れることで語彙の定着を図った。
- 学んだ語彙や手話を用いて、例文を作ったり、指導者と対話をする活動を取り入れた。



6



指導上の工夫

○聞き手の判断で、ヘッドセットが装用できるように準備した。また、指導者声が聞き取りやすくなるように高品質音声マイクを使用した。

○会話の中で、理解できていない言葉や深めたい内容があった際に、小さなホワイトボードを用いて、カメラに向けて提示するなど、スムーズに活動ができる方法を考えた。



9



10



11



12

教材

○パワーポイントを共有画面で提示した

指導内容

○季節の風物詩に関する言葉や時事問題の言葉などを学ぶ。その中で、それらの言葉にまつわる常識や慣習などについて理解する。

○基本的な漢字の四字熟語や英単語を興味をもって覚える。

○指文字やあいさつの手話を紹介して、手話でのコミュニケーションを楽しむ。

13

10月13日(水)の時間割

KOOO KOOO ←(名前)



リモート通級教室②



7時間目(16:00～) 自立活動

①風物詩・時事・常識・漢字クイズ

②簡単な手話を覚えよう②



14

10月のクイズ

(風物詩・時事・常識クイズ)

第5問 秋になるとイチョウにみのる実の名前はなんでしょう？

- ① 栗 ② どんぐり ③ きんなん
(銀杏)



第6問 季節に応じて制服を変更することを、何というでしょう？

- ① 衣装替え ② 着替え ③ 衣替え
いしょうがえ きがえ ころもがえ

第7問 秋の味覚の1つであるサンマを食べる時、大根おろしが添えてあることが多いと思うのですが理由は何故でしょうか？

- ① 縁起が良いため
- ② 胃もたれを防ぐため
- ③ 見た目を良くするため



第8問 (なぞなぞ) 秋のサクラってどんな花？

(コスモス (秋桜))



第11問 9月29日に行われた世間で大注目された選挙は何ですか？

- ① 東京都知事選挙
- ② 自民党総裁選挙
- ③ 衆議院選挙

第12問 その選挙が国内外から大きな注目を浴びた理由は何ですか？ 理由を説明した文中の()に適する言葉を書き入れなさい。

この選挙は、事実上、日本の新しい次期(① 総理大臣)を決める選挙になるからです。

現在は(② 自民 党)が国会で多数議席を有しているため、(② 自民 党)の総裁選は、次の(① 総理大臣)に直結するのです。

第13問 その選挙で当選した人は下の写真の
どの人ですか。その人の写真を選び、
名前を書きましょう。



岸田 文雄(きしだ ふみお)



高市 早苗(たかいち さなえ)



野田 聖子(のだ せいこ)



河野 太郎(こうの たろう)

19

第15問 「ローソン」「セブンイレブン」「ファミリーマート」
「サークルKさんくす」などの名前で親しまれている
お店のことを総称して何と言いますか。

(コンビニエンスストア(コンビニ))



第16問 「ガスト」「ロイヤルホスト」「サイゼリア」
「ジョイフル」などの名前で親しまれているお店
のことを総称して何と言いますか。

(ファミリーレストラン(ファミレス))

20

第19問 以下の物の数え方を表す言葉(数詞)を
()に書き入れましょう。

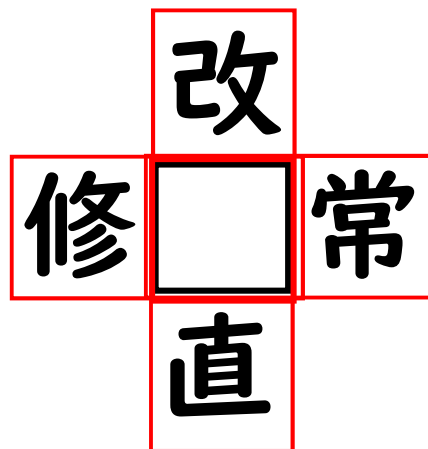
- ① 鉛筆1 (本 (ぽん))
- ② 写真アルバム2 (冊 (さつ))
- ③ 消しゴム3 (個 (こ))
- ④ 牛4 (頭 (とう))
- ⑤ 犬5 (匹 (ひき))
- ⑥ すずめ6 (羽 (わ))
- ⑦ うさぎ7 (羽 (わ))
- ⑧ わりばし8 (膳 (ぜん))



21

漢字クイズ その①

□に共通する漢字を一字書き入れて、
四つの熟語を完成させなさい。



22

①私の名前は〇〇〇〇です。

例：

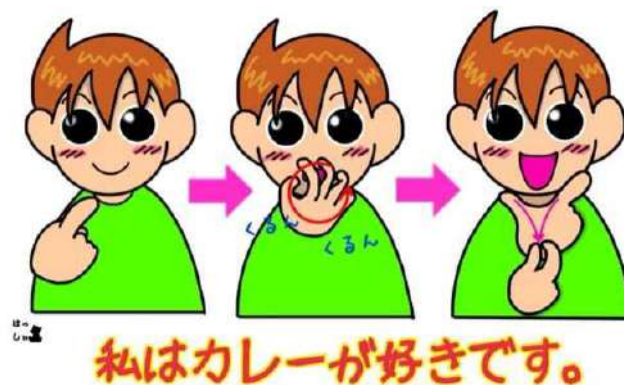


23

③私はサッカーが好きです。

④私は〇〇（食べ物など）が好きです。

例：



24

校内の指導体制

○スムーズに行えるように場所の確保など、協力体制を整えた。

○指導者は、地域支援・通級担当がおこなった。

関係機関との連携（在籍校・保護者等）

○在籍校とは、密に連携を取り合い、事前の打ち合わせや機器の接続についての準備をおこない、指導後は、成果などをうかがった。

○保護者には、指導の様子や内容について、対面時にお伝えした。

25

成果

○パソコンなどからの聞き取りや相手への伝え方の難しさを体感することで、自身の聞こえについて知り、聞こえにくさや伝えにくさへの対処法を考えることができた。

○視覚的な情報を画面で指導者の顔と同時に提示できたために集中して聴くこともできたので、理解がしやすかった。

○初めての手話に興味をもち、手話でコミュニケーションを楽しむことができた。

○普段の対面の授業・指導とは異なる遠隔での指導を楽しむようになった。

26

遠隔による通級指導の感想

児童生徒…オンラインで画面上でのやり取りが楽しかった。

保護者…引率していけない時に、遠隔指導だと欠席しなくてもよくなったのありがたい。

教員…学校で通級指導の様子を見ることができ、生徒の思いがけない実態（語彙力の無さ、常識的なことを知らないなど）を知り、支援や配慮の必要性をあらためて感じた。また、対象生徒が学校を休みがちな時期でも、遠隔通級を楽しみに登校していた。



27

今後の課題

○指導者が遠隔システムの知識を高め、もっと多様な指導の方法を考える必要がある。

○遠隔指導だけでは、指導内容が定着しにくいので、対面指導で確認する必要がある。

○遠隔通級の対象となる児童生徒の選び方が課題であると感じる。遠隔通級に適している場合もあれば、そうでない場合もある。また、保護者のニーズに合わない場合もあるので、事前の十分な検討・合意形成が必要であると感じる。

28

自立活動の効果的な指導の 在り方調査研究事業

令和4年2月14日（月）
県立豊岡聴覚特別支援学校

1

①対象児童生徒の実態

児童・生徒	学年	障害名	補聴機器
A	小学5年	感音難聴	右：補聴器 左：補聴器 ロジャー使用
B	中学2年	感音難聴	右：補聴器 左：補聴器

2

<対象児の決定にあたって>

○校内で保護者向けリーフレットを作成し、「遠隔による指導」の内容と対象者を説明した。

○本校で決めた対象者の条件

以下の条件をすべて満たす児童生徒

- ・高学年（小学5年生）以上の児童生徒
- ・自分のきこえについて伝えることができる児童生徒
- ・在籍校と保護者の承諾が得られる児童生徒

令和3年度 難聴通級指導教室

「遠隔による指導」のモデル研究について

兵庫県立豊岡聴覚特別支援学校 豊岡教育室（2021年4月）

○「遠隔による指導」とは

地理的・時間的制約等による指導の困難さを克服し、児童生徒への指導の効果を高めることを目的に、指導の一部をオンラインによる指導（WEB会議システム等）により実施する指導の形態のことです。

兵庫県教育委員会からの通達で令和3年度から、指導の一部を「遠隔による指導」として実施し、モデル研究を行うことになりました。対象による指導と併行的に組み合わせ、指導の効果を検証します。

「遠隔の指導」の内容は、自立活動の指導です。実施時間や回数、在籍校と相談しながら決めます。

○令和3年度モデル研究としての対象者は

以下の条件をすべて満たす児童生徒

- ・高学年（小学5年生）以上の児童生徒
- ・自分のきこえについて伝えることができる児童生徒
- ・在籍校と保護者の承諾が得られる児童生徒

※詳しい内容、手続き、その他わからないことは「あおぞらルーム」にお問い合わせください。

兵庫県立豊岡聴覚特別支援学校 「あおぞらルーム」 電話：0796-22-2114

3

②指導目標（A小5・B中2共通）

○指導目標

- ・学校生活や家庭生活における聞こえの状態を伝えることができる。
- ・自分の思いを自分なりの言葉で伝えることができる。

○自立活動の区分・項目

- ・環境の把握
- （3）感覚の補助及び代行手段の活用に関すること
- ・コミュニケーション
- （5）状況に応じたコミュニケーションに関すること

4

③指導の手立て

- ・「遠隔の指導」を始めるにあたって在籍校と事前の通信テストを行う。
 - (A小5) Aと遠隔指導担当教員が同席して実施。
 - (B中2) 担当者が在籍校を訪問した際に実施。
在籍校では、BがZOOMの接続や操作をするところを遠隔指導担当教員と担当者が見守り、指導した。本校では、支援教育部員、聴能部員が対応した。



③指導の手立て（続き）

- ・聞こえの環境を保障するために、在籍校、本校ともに需用費で購入したマイクスピーカーを使用する。
- ・視覚的な情報としてPowerPointのデータを画面共有しながら指導する。
- ・PowerPointのデータは、事前に在籍校に送付して印刷してもらい、児童生徒がワークシートとして手元に持つ。児童生徒は、指導を受けながらワークシートに記入していく。



③指導の手立て（続き）

- ・ワークシートは、通級指導で使っているファイルに綴じ、在籍校の教師や保護者に内容が伝わるようにする。また、通常の通級指導時に担当者がワークシートの記入状況を確認する。
- ・需用費で購入したホワイトボードを活用して、その場で書き（描き）表してコミュニケーションを取る活動も取り入れる。



7

④指導内容と指導上の工夫

○指導内容 ※B中2はZOOMの接続から自分で取り組んだ。

- ・最近の聞こえについて（学校生活や家庭生活における聞こえの確認）
- ・自分の言葉で話そう（1学期をふり返って、秋といえ）
- ・ゲームをしよう（イラストゲーム、ゲーム『すきなのもっち？』）
- ・（A小5）ロジャールの活用状況について
- ・（A小5）水泳学習について
- ・（B中2）ZOOMの接続とマイクスピーカーの接続について
- ・（B中2）中間テストについて
- ・（B中2）トライやるウィークについて

8

④指導内容と指導上の工夫（続き）

○指導上の工夫

- ・ 短時間（15分間）の指導であること、画面越しの指導であることを考慮し、遠隔の指導の目標や内容を考えた。また、書き込みしやすいワークシート作りを心がけ、選択肢から選択して答えることができる項目を多くした。
- ・ 心理の専門家から「心を開かせるために、ゲーム的な要素を取り入れ、楽しみながら共同作業をするとよい。」とアドバイスを受け、イラストゲームやゲーム『すきななのどっち？』に取り組んだ。楽しい活動に取り組む中で、その子どもなりの思いが引き出せるよう意識した。

9

⑤教材 ワークシートの一例

最近の聞こえについて② 

○学校や家庭で、聞こえのことで困ったことは何ですか。

○学校や家庭で、聞こえのことでよかったことは何ですか。

ロジャーについて④

ロジャーを使うとき、「ロジャーを使ってください。」とお願いができましたか。

- 1 お願いができました。
- 2 だいたいお願いができました。
- 3 あまりお願いができませんでした。



ゲームをしよう

○ゲーム『すきななのどっち？』をしましょう。

1 1人ずつじゅん番にカードを
1まい引いてどっちがすきかを
答える。

2 どうしてすきなのか、選んだ理由を答えましょう。

選んで、決めて、伝えるゲーム『すきななのどっち？』は、「自分で選び（自己選択）」、「自分で決める（自己決定）」、「自分の思いを伝える（意思表示）」ことを大切にできるゲームです。自分の好きなことに気づいたり、確かめたりすることで、自分自身の理解を深めることもできます。

考案者：佐藤義竹



10

⑤校内外の連携

○校内の指導体制

- ・ ZOOMの接続、操作方法について ICT部や聴能部が協力。
- ・ 難聴児を遠隔で指導するにあたって、聞こえの環境を保障するための機器の選定について聴能部が協力。
- ・ 在籍校とZOOMの接続と聞こえの環境の確認について聴能部、支援教育部が協力。
- ・ 「遠隔の指導」の際には、必要に応じて聴能部、支援教育部が同席。

11

⑤校内外の連携（続き）

○関係機関との連携

- ・ 在籍校
日程の調整、ワークシート準備、ZOOM接続、
「遠隔の指導」時の付き添い、情報共有
- ・ 保護者
ワークシートを見て内容確認、
通級指導の付き添い時に情報共有

12

⑤成果と課題

- ・本校では、月1回90分の通級指導（年2回は在籍校にて）を行っている。通常に通級指導の間に「遠隔の指導」を入れることで、画面越しではあるが、顔を合わせる回数が増えた。今年度通級担当者が代わったが、通常に通級指導と「遠隔の指導」を重ねることで、児童生徒と担当者が比較的早く信頼関係を築くことができた。また、在籍校の教師と連絡を密にとることができた。
- ・通常に通級指導と「遠隔の指導」を関連づけて指導することで、聞こえの環境に対する困り感に早期に気づき、在籍校に対応を考えてもらうことができた。また、通常に通級指導内容の押さえをすることができた。

13

⑤成果と課題（続き）

- ・難聴児を対象とした「遠隔の指導」では、聞こえの環境を保障することが最低条件である。対象校が増えるのであれば、今後とも機器購入のための予算を希望する。
- ・今年度対象の2校では、A小5は、教頭（本児の通級指導に関する窓口を担当）、B中2は、養護教諭（コーディネーター）が「遠隔の指導」を担当している。クラス担任だけではなく、在籍校としての協力が欠かせない。

14

⑤成果と課題（続き）

- ・天候や通信状況によって遠隔システムが不安定になる（音声が届き取りにくかったり、途切れたりする、画面がかたまる等）ことがあり、万能ではない。「遠隔の指導」と対面での指導を組み合わせ、それぞれのよさを生かした指導を行っていききたい。
- ・ワークシートの準備や、ZOOMの接続、「遠隔の指導」時の付き添い等、在籍校の負担は決して小さくない。また、担当者と在籍校の都合を調整することがなかなか難しい現実がある。在籍校としっかり連携を取って、よりよい指導を目指していききたい。

ICTを活用した自立活動の 効果的な指導の在り方調検討会議

令和4年2月14日(月)

兵庫県教育委員会事務局特別支援教育課

1

内容

- 1 京都府立宇治支援学校視察報告
- 2 今年度の取組について
- 3 次年度に向けて

2

I 京都府立宇治支援学校視察報告

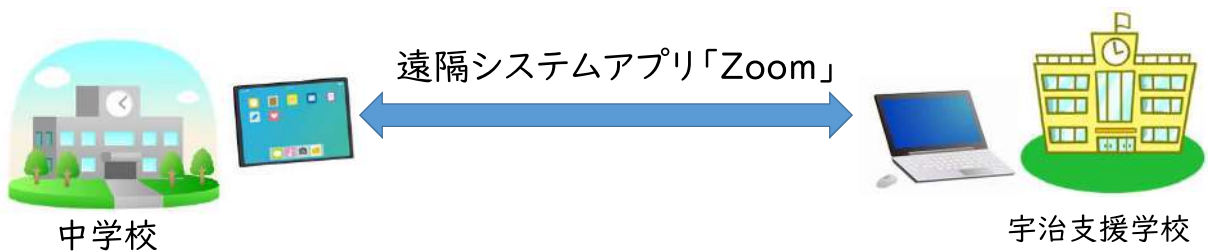


- ・障害種別：知的障害、肢体不自由
- ・設置学部：小・中・高等学部 306名（自力通学70名）
- ・地域学習に力を入れている
（人形劇、地域清掃、校内にカフェ併設）
- ・校内にスーパーサポートセンター設置
（理学療法士が配置しており、学校の自立活動もサポート）

3

I 京都府立宇治支援学校視察報告

【リモートでの教育相談】



- ・ポケットWi-Fiを支援学校で用意しており、訪問先でも役に立っている。
- ・Zoomでの相談を画面録画しておくことで、次回の相談に活かせる。

4

京都府立宇治支援学校視察報告

【リモートでの教育相談】

- ・府立学校とはTeamsが共通で使用
- ・有料Zoomの予算を取り、使用している。
- ・Zoomで事前相談、アセスメント、スライド資料の共有、主治医との連携について画面録画での記録を行っている。
- ・遠隔システムを活用した教育相談をすることで移動費削減・移動時間の短縮→その分、相談時間の確保につながっている。
- ・教育相談を行う学校のWi-Fi環境が安定していないことがあり、ポケットWi-Fiを使用している。
- ・今後、情報ガイダンスの作成、保護者の同意書作成を検討。
- ・教育相談の前に実態把握をGoogleフォームで行っているが、今後、選択式にするなどの簡略化を検討

5

I 京都府立宇治支援学校視察報告

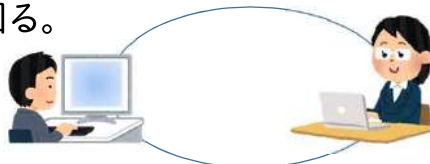
【ICTを活用した取組】

- ・行事のリモート配信、リモート会議、YouTube懇談（Zoomで40分以内）
- ・リモート交流（転校した児童生徒、不登校生徒、訪問教育、校内の他学年・他学部、地域の音楽サークル、入院している児童生徒）
- ・不登校の児童生徒が登校した際、アップルウォッチで健康観察を行い、自己理解の学習に取り組んでいる。
- ・訪問教育を受けている児童生徒宅に教員1名が訪問し、もう1名の教員が校内からリモートでフォローを行う。

6

I 京都府立宇治支援学校視察報告

- ・Googleフォームに記録フォームに選択式と記述式を作成。
- ・授業後に教師に記入し、校内の共有サーバーにデータを入れ、校内で情報共有を図る。



- ・自立活動の個別の指導計画において実態把握から指導目標を設定するに至る判断の根拠を記入する。

自立活動の指導項目			
1 健康の保持	①生活リズム	②生活管理	③身体各部の理解
	④特性理解と調整	⑤健康状態の維持	
2 心理的な安定	①情緒の安定	②状況の理解と変化への対応	③困難を克服する意欲
3 人間関係の形成	①関わり方の基礎	②意図・感情の理解	③自己理解と行動の調整
	④集団参加の基礎		
4 環境の把握	①感覚の活用	②感覚・認知の理解	③代行手段の活用
	④状況把握と行動	⑤概念の形成	
5 身体の動き	①動きの基本技能	②補助的手段	③基本動作
	④移動能力	⑤円滑な遂行	
6 コミュニケーション	①基本的技能	②受容と表出	③形成と活用
	④手段の選択・活用	⑤状況に応じた対応	
指導場面	○時間における指導 ○教育活動全体		
指導期間	開始日 ～ 終了予定日		

7

I 京都府立宇治支援学校視察報告

- ・歩行の動きを確認することができる無料アプリ「キノベラ」で動画撮影の分析を行い、発達曲線を確認できるようにしている。
- ※ QRコードでフォームにつながり、変容を入力する。

- ・肥満傾向の児童生徒に対し、アップルウォッチで消費カロリーを管理し、Googleフォームに入力して記録を校内で共通理解を図る。



8

2 ICTを活用した自立活動の効果的な指導の在り方調査研究事業 今年度の取組

○事業の目指すこと

遠隔システムを利用して児童生徒の障害による学習上又は生活上の困難を改善するための指導の在り方を調査研究する。

○事業内容

- ・ICTを活用した自立活動の効果的な指導の在り方検討会議（年3回）
- ・ICT活用研究発表会の実施（年1回）
- ・研究指定校での取組

9

2 ICTを活用した自立活動の効果的な指導の在り方調査研究事業 今年度の取組

【スケジュール】

4月 ・各研究指定校との打合せ

5月 ・研究計画書作成

6月 ・第1回検討会議

6月・8月

・自立活動リーダー育成講座

10月 ・第2回検討会議

11月 ・ICT活用研究発表会

1月 ・今年度のまとめを作成

2月 ・第3回検討会議

3月 ・国への報告

10

2 ICTを活用した自立活動の効果的な指導の在り方調査研究事業 今年度の取組

【研究指定校】

知的障害 県立姫路しらさぎ特別支援学校

肢体不自由 県立西はりま特別支援学校

難聴通級 県立豊岡聴覚 県立神戸聴覚 県立姫路聴覚

LD・ADHD等通級 県立村岡高等学校

11

2 ICTを活用した自立活動の効果的な指導の在り方調査研究事業

知的障害 遠隔システム: Google Classroom、GoogleMeet

県立姫路しらさぎ特別支援学校 対象児童生徒: 高等部の自立グループ(9名)

【指導内容】

- ・学習形態: 集団からグループ、ペアと段階的に学習形態をステップアップさせた
- ・学習内容: 別室にいる教師や友達と自己紹介やクイズ、インタビュー

【研究成果】

- ・画面に映る自分の姿を見ながら、自分の発言の仕方や相手にどのように伝わっているのかを確認する姿が増えた。
- ・ICT機器やオンライン活用マニュアルを作成、生徒自身でタブレットを操作し、遠隔システムに入退出することができた。

【今後の課題】

- ・ICT環境(使用機器やネットワーク環境の問題)で活動に制約があった。
- ・遠隔システム以外のICT活用を検討

12

2 ICTを活用した自立活動の効果的な指導の在り方調査研究事業

肢体不自由障害 視線入力支援装置

県立西はりま特別支援学校 対象児童生徒：高等部（1名）、

【指導内容】

- ・学習形態：個別で視線入力支援装置の操作、姿勢について学習後、グループ学習
- ・学習内容：注視しやすい姿勢 視線入力支援装置を使用した暗幕クイズ

【研究の成果】

- ・視線入力支援装置を使用することで、注視しやすい姿勢、注視の仕方が客観的に分かったことで生徒に伝わりやすい教材の提示方法や生徒の姿勢を知ることができ、注視する時間が以前より、長くなった。
- ・視線入力支援装置を活用し、生徒の意思を反映させたクイズを出すことができ、視線入力支援装置がコミュニケーションツールのひとつになることがわかった。

【今後の課題】

- ・グループ学習では、他の生徒が視線入力をしている生徒よりも画面に注目していた。
- ・クイズでは、視線入力支援装置の操作と他の生徒の回答に時差が生じる。

13

2 ICTを活用した自立活動の効果的な指導の在り方調査研究事業

肢体不自由障害 VR、360度動画

県立西はりま特別支援学校 対象児童生徒：中学部（1名）、高等部（1名）

【指導内容】

- ・学習形態：個別
- ・学習内容：欠席した行事の予行演習を360度動画で疑似体験をする。
- ・廊下の適切な歩き方

【研究の成果】

- ・生徒が自分の見たい場所を選択して動画を視聴することで生徒の安心感につながった。
- ・VRを使用することで歩く速度、通行者や物に気をつけて歩くことがわかり、安全に歩くことができるようになった。

【今後の課題】

- ・VR機器の使用では、視界が遮られる為、生徒がどの場所を見ているのかが客観的に分かりにくく、指導が難しい。
- ・家庭での学習や特別支援学校から地域への発信にYouTubeの動画配信を活用する。

14

2 ICTを活用した自立活動の効果的な指導の在り方調査研究事業

難聴通級

遠隔システム:Zoom

県立神戸聴覚特別支援学校

対象児童生徒:中1(2名)、中2(1名)、中3(2名)

【指導内容】

- ・学習形態:地域の在籍校から遠隔システムで指導を受ける
- ・学習内容:個別学習、グループでの学習、他校の難聴通級生との学習

【研究成果】

- ・生徒自身が遠隔システムを使用する上で障害特性を踏まえどのような支援が必要か考える機会になった。
- ・遠隔システムに字幕を加え、会話内容の理解向上を図ることができた。
- ・生徒自身がスライドを作成し、画面共有することができた
- ・聴覚通級生同士を遠隔で交流し、つながることができた。

【今後の課題】

- ・接続不具合時の校内のサポート体制
- ・効果的な字幕の提示方法

15

2 ICTを活用した自立活動の効果的な指導の在り方調査研究事業

LD・ADHD等通級

遠隔システム:Zoom

県立村岡高等学校

対象生徒:高1(1名)、高3(1名)

【指導内容】

- ・学習形態:個別学習
- ・学習内容:フリートークで相手を意識した会話、心情語ゲーム

【研究成果】

- ・リモート場面で生徒が初めて自分の苦手な状況について自分の言葉で話すことができた。
- ・Zoomのホワイトボード機能に生徒から積極的に書き込みをするなど、ICT機器に関心をもって学習に参加することができた。

【今後の課題】

- ・卒業につながるICTを活用した学習内容の検討
- ・教員以外の様々な人とつながるリモートの活用

16

2 ICTを活用した自立活動の効果的な指導の在り方調査研究事業 今年度の取組

【リーフレット作成】

○テーマ：「ICTを活用した自立活動の効果的な指導について」
～子ども一人一人の願いを叶えるために～

○事例掲載校

- ・特別支援学級 西宮市立上ヶ原南小学校 「交流学級に行きたい」
- ・通級による指導 県立西脇北工業高校 「自分に合うアプリを見つけたい」
県立神戸聴覚特別支援学校 「他校の同じ障害のある人と
友達になりたい」
- ・特別支援学校 県立姫路しらさぎ特別支援学校 「安心して授業を受けたい」
県立西はりま特別支援学校 「友達とクイズで一緒に盛り上げたい」

17

2 ICTを活用した自立活動の効果的な指導の在り方調査研究事業 今年度の取組

【事業取組の成果】

- ・ICTを使うことが目的ではなく、ICTの機能をどう活用して、児童生徒の学ぶ意欲を高め、指導の効果をあげるかという視点で研究に取り組むことができた。
- ・ICTの活用を通して、児童生徒本人の障害理解をする機会につながった。
- ・遠隔システムを活用することで、指導の様子を他の教員や外部専門家との連携に役立った。

【事業取組の課題】

- ・児童生徒の実態把握の在り方
- ・研究データ等の情報共有、体制
- ・自立活動の授業内容の般化

18

3 ICTを活用した自立活動の効果的な指導の在り方調査研究事業 次年度に向けて

【研究のゴール】

- (1) 児童生徒の実態に応じて、遠隔システムを活用することにより、効果的な自立活動を実施することができる
- (2) 教員が日常的に遠隔システムを活用して、学校間や外部機関と連携し、課題解決を図ることができる

【研究内容】

- (1) 保護者や施設、専門機関等との遠隔システムによる児童生徒の実態把握
(障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、生活や学習環境など)の在り方の研究
- (2) 遠隔システムを活用した自立活動の指導及び評価の在り方研究(実践記録等のサーバー共有、他校や外部専門機関等との遠隔システムを活用した助言など)
- (3) 遠隔システムによる外部専門家等との連携の在り方の研究

19

協議事項

テーマ「ICT を活用した自立活動の効果的な指導の在り方調査研究事業の成果と
今後の課題について」

Handwriting practice lines consisting of 20 horizontal dashed lines.